

は じ め に

世界史を受験科目に選んだ皆さんのなかには、基本知識をインプットするためのツールとして「一問一答を活用しよう!」と考える人も多いと思います。しかし、世間には様々な世界史の一問一答問題集があふれていて、「どれがいいんだろう…」と悩むことでしょう。当然、それぞれの一問一答ごとに特色があるわけですが、「入試に出る形式がいいな」「地図がほしいな」「論述も少しやりたいな」「基本用語と難関用語との区別をしてほしいな」など、皆さんの要求をすべて満たしてくれるものは、なかなか見つからなかったのではないのでしょうか。

「だったら、それらの要求をすべて満たしたのを作ってしまおう!」というコンセプトで作成したのが本書です。

第1部では、膨大な量の過去問分析をしたうえで、「何となく」ではなく、「本当に頻出の用語」を、「実際に入試に出題された形式」で掲載しました。また、多くの地図を掲載するとともに、入試に頻出の小論述問題も掲載しています。

第2部では、第1部には掲載されていない難関用語を、解説文付きでまとめることで、受験生がまず覚えるべき基本的な用語がどれなのかを明確にしました。さらに巻末には索引を掲載し、本書を「世界史用語辞典」としても活用できるようにしました。

こうして、世界史の初学者から上級者まで、幅広い層の要求にこたえる新しい一問一答が完成しました。世界史を得意科目とするためのベストパートナーの誕生です! 本書が、皆さんの第一志望合格への道標になることはまちがいありません。

著者一同

本書の使い方

第1部

古代から現代まで、時代・テーマ別に34章に区分しました。



① 地図

各章の冒頭に地図を掲載しました。世界史の理解を深め、また近年増加傾向の地図問題を確実に得点するためには、地理的な知識は必須です。各章の問題に出てきた地名はもちろんのこと、起こった出来事なども盛り込みました。特に**重要な情報は赤字にしました**ので、付属の赤シートも活用しながら繰り返し確認して定着をはかりましょう。

② 問題

「実際に入試で問われる形式」で用語を学習できるよう、**過去の入試問題を掲載しています**。そのため、一問一答的な問題だけでなく、空欄補充問題も多く採用しました。解答となる用語と合わせて覚えておきたい、問題文中の**重要用語も赤字**としていますので、1つの問題から多くの知識を学ぶことができます。まず、**解答部分の方を付属の赤シートで隠して答えていきま**

す。それができるようになったら、今度は問題部分の方に赤シートをかぶせて、隠れた用語を解答していきましょう。問題の最後には、出典となる大学名を掲載しています。志望校の問題が正解できるようになれば、学習のモチベーションもあがることでしょう。なお、解答について、()内は他の表記を、[]内は別解を示すものとして区別しています。

③チェックボックス

用語を正しく覚えたかどうかを確認するために、各問題にチェックボックスを設けました。間違った問題をチェックして何度も繰り返すことで、苦手部分を克服して効率的に学習を進めることができます。

④

④ 読解問題と読解

11. ギリシア人は政治的には分業状態にあったが、地方、文化的には一つの民族であるという共通の認識を持っていた。この共通認識を支えた言葉遣いを40字以内で説明しなさい。(東京大)
「オリンポスの神々の居所の存在と、カメロニアの文学が共通する認識でヘレニズムを形成し、神話をパンパシフィックとして認識した。」(2019)

12. スパルタの国制の特徴を支える民衆配との関連で90字程度で説明せよ。(北海道大)
「ギリシア東部の地方、アケイアンの半島に位置し、健康志向のヘイロー・ダイエットを推した。豊穡の食糧に飽き、シムラゴリス増殖と併発する軍国主義体制のもと、市民は徹底的に平等性を保つて結束を高めた。」(2019)

④ 論述問題

近年、論述問題の出題が増加していることを受けて、各章の最後に小論述問題を掲載しました。論述問題特有のテーマに加え、一問一答と重複する頻出テーマも採用して学習効果の向上を狙いました。論述問題を解く際には、以下のポイントを意識しましょう。

1. 解答を見ずに、自分なりの答案を考える。
2. 解答を見て、足りなかった要素が何なのかを認識する。
3. 足りなかった要素を補完したうえで、自分なりの答案を作成する。

第2部

第1部の基礎用語をマスターした上級者向けの難関用語を集めました。難関私大では、細かな用語も出題されますが、教科書の基本レベルを超えるものをどう対策すればよいのか、茫然としているのが現実ではないでしょうか。そこで、入試で頻出の難関用語を300に厳選したのが第2部です。用語の丸暗記で終わらないよう、内容を理解できる簡潔な解説文を付けてあります。これによって、雲をつかむような非効率な学習から抜け出すことができますはずです。

目次

第1部 一問一答+地図・論述…7

- 第1章 先史時代…8
- 第2章 オリエント世界…11
- 第3章 ギリシア世界…19
- 第4章 地中海世界…28
- 第5章 イラン世界と中央アジア…39
- 第6章 南アジア世界…42
- 第7章 東南アジア世界…47
- 第8章 東アジア世界(1)…52
- 第9章 東アジア世界(2)…67
- 第10章 東アジア世界(3)…74
- 第11章 東アジア世界(4)…91
- 第12章 イスラーム世界の形成と発展…100
- 第13章 イスラーム世界の繁栄…113
- 第14章 西ヨーロッパ世界の成立…123
- 第15章 ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の成立と発展…131
- 第16章 西ヨーロッパ世界の発展…136
- 第17章 西ヨーロッパ世界の変動…145

- 第18章 主権国家体制の形成・展開…164
- 第19章 西ヨーロッパ諸国の海外進出と抗争…184
- 第20章 革命の時代…190
- 第21章 19世紀の欧米…204
- 第22章 アジア・アフリカの動揺と民族運動…238
- 第23章 帝国主義の時代…261
- 第24章 第一次世界大戦とロシア革命…273
- 第25章 ヴェルサイユ体制と欧米諸国…283
- 第26章 戦間期のアジア・アフリカ…292
- 第27章 世界恐慌とファシズム…303
- 第28章 第二次世界大戦…311
- 第29章 戦後の国際関係…318
- 第30章 現代世界(1)…333
- 第31章 現代世界(2)…339
- 第32章 現代世界(3)…347
- 第33章 現代世界(4)…354
- 第34章 現代世界(5)…361

第2部 差がつく 難関用語…369

索引…386